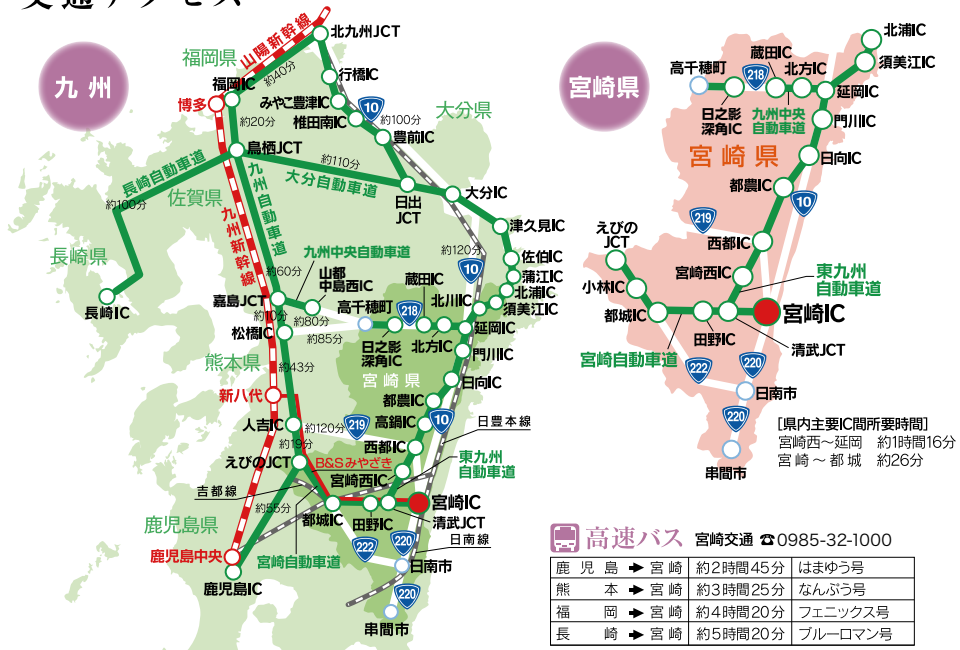


交通アクセス

※2021年1月現在の情報です



高速バス 宮崎交通 ☎0985-32-1000

鹿児島	→ 宮崎	約2時間45分	はまゆう号
熊本	→ 宮崎	約3時間25分	なんぼう号
福岡	→ 宮崎	約4時間20分	フェニックス号
長崎	→ 宮崎	約5時間20分	ブルーロマン号

新幹線・JR特急

JR 宮崎駅 ☎0985-23-3454		日豊本線	宮崎駅
大分駅	→	特急にちりん / 約3時間	
鹿児島中央駅	→	特急きりしま / 約2時間	
新大分駅		九州新幹線	宮崎駅
博多駅	→	B&Sみやざき号 / 約2時間 (新八代～宮崎)	
新八代駅	→	B&Sみやざき号 / 約3時間 (博多～宮崎)	
新大分駅		九州新幹線	宮崎駅
博多駅		九州新幹線	宮崎駅
新八代駅		九州新幹線	宮崎駅

空路 (宮崎ブルーゲンビア空港)

東京(羽田) → 宮崎	約110分	ANA, JAL, ソラシドエア	全日空 (ANA)	ジェットスター
東京(成田) → 宮崎	約130分	ANA, ソラシドエア	国内線 ☎0570-029-222	☎0570-550-538
名古屋(中部) → 宮崎	約90分	ANA, ソラシドエア	日本航空 (JAL)	オリエンタルエアブリッジ (ORC)
大阪(関西) → 宮崎	約70分	Peach	☎0570-025-071	☎0570-064-380
大阪(伊丹) → 宮崎	約70分	ANA, JAL	ソラシドエア	アジアナ航空
福岡 → 宮崎	約45分	ANA, JAL, ORC	☎0570-037-283	☎0570-082-555
沖縄(那覇) → 宮崎	約80分	ソラシドエア	Peach	チャイナエアライン
ソウル(仁川) → 宮崎	約100分	アジアナ航空	☎0570-001-292	☎0985-64-9811
台北(桃園) → 宮崎	約120分	チャイナエアライン		

カーフェリー (宮崎港)

三宮 (神戸港)	19:10発 (月～土) 18:00発 (日)	→	翌日8:40着	宮崎
	翌日7:30着	←	19:10発	

宮崎カーフェリー予約センター
神戸 ☎078-321-3030
宮崎 ☎0985-29-5566

宮崎県 総合政策部 記紀編さん記念事業推進室

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 電話: 0985-26-7099

Facebook
「神話のふるさと みやざき」

🔍 神話のふるさと みやざき

神話の源流

神々の足跡をたどる
高千穂・日之影の旅

はじまりの物語

神話の源流へ。
宮崎県

神話の源流へ。～みやざき神話ストーリー～

天孫降臨

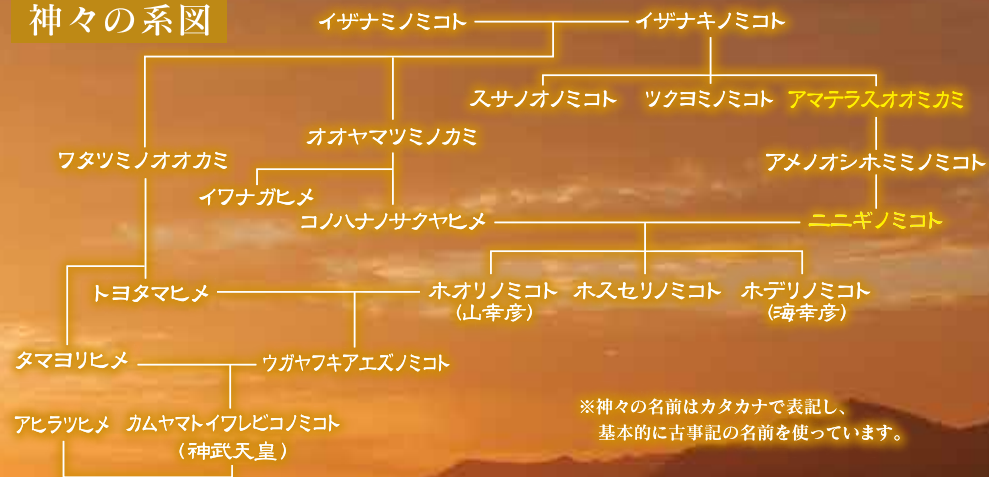
天上界・高天原（たかあまのはら）のアマテラスオオミカミは、孫のニニギノミコトに地上の葦原中国（あしはらのなかつくに）を治めるよう命じ、「三種の神器（さんしゅのじんぎ）」を与えて遣わしました。

早速ニニギノミコトが天降ろうとすると、上は高天原、下は葦原中国を照らす神が待ち受けています。女神・アメノウズメノミコトに命じて何者かと問うと、「私は国つ神のサルタビコノカミです。天孫が天より降られると聞いて、葦原中国へご案内しようとお待ちしていました」と答えました。

こうしてニニギノミコトは、お供の神々とともに天空に幾重にもたなびく雲を押し分け、威風堂々と地上を目指して進み、ついに、笠紫の日向の高千穂にそびえる峰に降り立つと、「ここは朝日が真っすぐに射し、夕日が輝く素晴らしいところだ」と言って、高天原に届くほど大きな屋根の宮を築き、この地に住むことにしました。

深い山々に囲まれた天孫降臨ゆかりの地・高千穂町と日之影町。木々を揺らす風や川のせせらぎから、遠い昔にこの地に降り立ったという神々のささやきが聞こえる気がします。この地に残る神々の足跡をたどる旅をはじめましょう。

神々の系図



天孫降臨の物語が息づく高千穂・日之影へ

1 高千穂町 神々の息づかいが聞こえる里で自らのルーツに思いを馳せる旅……………P.2

神話ゆかりの地が点在する高千穂町。どこか懐かしい「神々が暮らす風景」に自らのルーツを重ね、思いを馳せる旅へ。

2 日之影町 山間の人々に受け継がれる文化に触れ、明日へと進む力を得る旅……………P.8

ニニギノミコトやミケイリノミコトの軌跡が残る日之影町。豊かな自然の中で大切に受け継がれてきた物語と文化に触れ、明日への力をもらう旅へ。

「神話エッセイ」

神話のふるさと高千穂へ

歌人 俵 万智

秋の一日、ゆっくり高千穂町をめぐった。紅葉の盛りには少し早いが、ひんやりと澄んだ空気が心地いい。天岩戸神社から天安河原へと歩みを進めると、巨大な洞窟に至る。中から空を見上げた時「ああ、ぼっかり開いた窓から人の世が見える……」と、そんな気分になった。ここからの眺めは、神様の視点なのだと、ごく自然に感じる自分がいた。アマテラスに岩戸から出てきてもらうにはどうすればいいか……この場所で開かれた神様たちの作戦会議に思いを馳せる。

高千穂峡では、およそ9万年前の阿蘇の火山活動の名残を見ることがができる。噴出した火砕流が帯状に流れ出し、急激に冷却されたために柱状節理のすばらしい懸崖となった。近くには、高千穂の伝説に残る鬼八きやおちが投げたとされる「鬼八の力石」もある。地形に変化をもたらすほどの火山活動は、巨石を飛ばしもしただろうし、降灰で世界を暗黒にもしただろう。人類のそういった経験が、確かな記憶となって、神話

が語りはじめられた。そしてまさに、ここは、その記憶の原点なのだと感じさせられる。

高千穂の人々は、願い事によってお参りする神社を決めると聞いた。たとえば縁結びなら荒立神社。猿田彦命さるひこのみことと天鈿女命あめのすめのみことが結婚して住まわれた地と言われている。身近に八百万やっぴやうまんの神々を感じている土地柄らしいエピソードだなあと思う。

高千穂神社では、後藤俊彦宮司を訪ねた。神話は、遠い昔の物語ではなく、未来に役立つから語り伝えて残したものの、というお話に感銘を受けた。戦争から始まる神話を持つ国もあるけれど、日本の神話は太陽の素晴らしさや、混沌から秩序を回復したというところから始まっている。神は鉄砲ではなく米を持って地上に降りてくる。「神話は、日本の歴史の中で、人間の乳幼児期みたいなもの。人格形成に関わっているんです」。穏やかに大らかな神話が、誇らしくなる。

夜は高千穂神社で、夜神楽を堪能した。東日本大震災の後、後藤宮司は東北に神楽を持っていかれた。ユーモラスな演目の時に「震災後、初めて笑いました」と言われたそうだ。そんなエピソードを思い出させる御神体の舞を見つつ、夜は更けていった。

神様を感じる心ここに来て確かめている高千穂の秋



【執筆者紹介】

俵 万智

歌人。1962年大阪生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。歌集『サラダ記念日』で第32回現代歌人協会賞、『プーさんの鼻』で第11回若山牧水賞、『未来のサイズ』で第36回詩歌文学館賞を受賞。

神と人がつながる物語がそこに。
神々の世界に思いを馳せる。

天岩戸開き・天孫降臨伝承の地「高千穂」

高千穂町には、天孫降臨のほか天岩戸開き神話ゆかりの地も残されています。

一弟のスサノオノミコトの乱暴に困り果て、天岩屋(あまのいわや)に閉じこもったアマテラスオオミカミ。世界が闇に包まれてしまったので、困った八百万(やおよろず)の神々は相談し、天岩屋の前で大宴会を開くことにしました。アメノウズメノミコトが、伏せた桶の上で着物をはだけてしまうほど面白おかしく踊ったので、神々は大笑いです。

外の様子が気になったアマテラスオオミカミは、天岩戸(あまのいわと)を少し開け「皆、なぜ喜んでいるの?」と尋ねます。アメノウズメノミコトが「あなた様よりも尊い神様がいらっしゃるの、喜んでいるのです」と答え、アメノコヤネノミコトとフトダマノミコトが隙間から鏡を差し出しました。鏡の中の光り輝く姿をもっと見ようと、さらに天岩戸を開いた瞬間、力自慢のタチカラヲノミコトがアマテラスオオミカミの手をとって外に引き出し、世界は再び光を取り戻したのです。

天岩戸開きと天孫降臨。物語を描きながらゆかりの地を訪れると、神々の世界がすぐ近くにあるような不思議な気持ちになります。

高千穂町・天安河原 仰慕ヶ窟(ぎょうぼうがいわや)

天岩戸神社

岩戸川を挟んで西本宮と東本宮があり、西本宮は、アマテラスオオミカミが隠れたという洞窟「天岩戸」を御神体として祀り、東本宮は、岩屋からお出ましになったアマテラスオオミカミが最初に住んだ場所を祀っています。

所在地：高千穂町岩戸 1073-1 TEL：0982-74-8239



天安河原

天岩戸神社から徒歩 10 分ほどの場所にある別名「仰慕ヶ窟(ぎょうぼうがいわや)」とも呼ばれる洞窟。アマテラスオオミカミを外に連れ出すために、八百万の神々が相談したとされる場所です。人々が祈りを込めて積み上げた無数の石に光が差し込み、神秘的な雰囲気になっています。



くしふる神社

古事記に記された天孫降臨の地、「笠紫の日向の高千穂のくじふるたけ」とされる「くしふるの峰」の中腹に鎮座し、昔は山そのものを御神体としていました。本殿の見事な彫刻でも知られています。周辺には「神話史跡遊歩道」が整備され、神話ゆかりの地を歩いて散策することができます。

所在地：高千穂町大字三田井 713 TEL：0982-72-2413

荒立神社

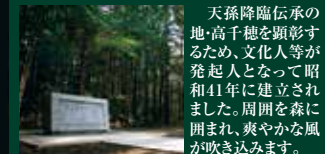
サルタビコノカミとアメノウズメノミコトを祀り、天孫降臨の後、2神が結婚して住んだと伝わる場所にある神社です。切り出したばかりの荒木を使い、急いで建てたことが「荒立」の由来とされます。

所在地：高千穂町三田井 667 TEL：0982-72-2368



神話史跡遊歩道の見どころ

風土記・万葉の丘「高千穂顕彰碑」 高天原遙拝所



くしふる神社の南に連なる小高い丘にあり、降臨したニギハヤヒノミコトに同行した神々が高天原を遙拝した地と伝わります。

周辺観光 Info.

Information

天岩戸の湯

天岩戸地区を遠くまで一望できる高台にある公衆浴場。手力雄の湯、鉦女の湯といった神話にちなんだ大浴場、サウナがあります。

所在地：高千穂町岩戸 58 TEL：0982-74-8288
営業時間：10:00～22:00(最終入館 21:30)
定休日：水曜(祝日の場合前日) 料金：大人 350 円



暴れ鬼・鬼八とミケイリノミコト 語り継がれる英雄譚がここに。

高千穂を救った神武天皇の兄の物語

記紀では、東征の途中で常世（とこよ）の国に旅立たとされる神武天皇の兄・ミケイリノミコトですが、高千穂には、この地に戻って暴れ鬼・鬼八（きはち）を退治したとの伝説が残っています。

ミケイリノミコトは、ある日、鬼八にさらわれ、妻にされたという美しいウノメヒメに出会い、鬼八を退治することを決意します。激しい攻防の末、ミケイリノミコトに退治された鬼八の亡骸は、大きな石で押さえられ埋められましたが、なんと鬼八は強い魔力で一夜にして蘇り、さらに暴れ回りました。

ミケイリノミコトが再び鬼八を退治し、今度は亡骸を3つに切り離して埋めたところ、さすがに蘇ることはありませんでしたが、死してなお、鬼八の霊は、早霜を降らせて作物に害を与えるなど、高千穂の人々を困らせました。そこで、人々が鬼八の霊を鎮める祭りを行ったところ、早霜の害はなくなり、作物の実りも良くなりました。その後、ミケイリノミコトは、ウノメヒメを助け出して妻とし、その子孫は代々高千穂の地を治めたそうです。

記紀にはない、その土地ならではの神話を知るのも神話旅の醍醐味です。

高千穂神社・鬼八退治の様子を表した脇障子



卍 高千穂神社

高千穂八十八社の総社。ニニギノミコト以下日向三代とその妻6柱「高千穂皇神（たかちほすめがみ）」と、ミケイリノミコトとその妻10柱「十社大明神」を祀ります。旧暦12月3日には、鬼八の霊を鎮める「猪掛祭（ししかけまつり）」が行われています。

所在地：高千穂町三田井 1037 TEL：0982-72-2413



めおと 夫婦杉

境内にあり、周りを夫婦・恋人・友達と手をつないで3回回ると幸せになれると伝わります。



七つが池

鬼八の力石



首塚

きはちづか 鬼八塚

ミケイリノミコトが切り離した鬼八の体をそれぞれ埋葬し、祀った塚とされます。「首塚」「胴塚」「手足塚」の3ヶ所があります。

所在地：首塚／高千穂町三田井 1103
(ソレスト高千穂ホテル近く)
胴塚／所在地：高千穂町三田井1127-5
(旅館神仙敷地内)
手足塚／高千穂町三田井
(淡路城跡中腹)

お問合せ：高千穂町観光協会
TEL：0982-73-1213

高千穂峡

柱状節理の断崖がそそり立つ国の名勝。約1kmの遊歩道を歩くと、ミケイリノミコトとウノメヒメの出逢いの地とされる「七つが池」や、鬼八がミケイリノミコトに投げつけ、力自慢をしたという「鬼八の力石」も見ることができます。断崖や流れ落ちる滝を間近で楽しめるボートも人気です。

所在地：高千穂町三田井御塩井 TEL：0982-73-1213(高千穂町観光協会)
ボート営業時間：8:30～16:30(河川増水時は運休)
料金：入場無料／貸しボート大人1名30分4000円～(延長10分ごとに300円)・定員3名

周辺観光Info.

Information

神々がもたらす山の恵みを味わう

鬼八の蔵

高千穂生まれのこだわりの物産が並ぶ直売所。町内で朝収穫された新鮮な旬の野菜や釜炒り茶などの加工品のほか、わら草履や神楽面、神楽で使う彫り物（えりもの）など高千穂ならではの工芸品などもあり、お土産探しにぴったりです。

所在地：高千穂町三田井1099-11
TEL：0982-72-5002
営業時間：9:00～18:00



「神話エッセイ」

日の光の町

歌人 小島 なお

日之影はおおきな壺のなかの町 音伴いて日之光差す

「なんと有難い日之影か」。神武天皇の兄三毛入野命が悪神の鬼八退治に向う途中、大雨が降ってきてしまったため神に祈ると不思議なことに雨が止み、雲間に日の光が差したという。それがこの町の名の由来。「日之影」は「日之光」。古人は、影のことも光のことも同じく「かげ」と呼んでいた。だから日之影町のロゴマークには、青い空に掛かる橋と、緑の溪谷と、山間から覗くおおきな太陽がデザインされている。コピーは「太陽と 橋と 溪谷と」。

宮崎市から車で約二時間。日之影キャンプ村を出発地とする「森林セラピー」ウォーキングコースから今回の旅は始まった。「森林セラピー」とは、森の持つ癒し効果を科学的に解明し、心身の健康作りに活かす試み。ガイドをしてくださった森林セラピストの高見昭雄さん曰く、「フイトンチツド」なる木の成分が精神を安定させてくれるのだとか（二時間の森林浴で効果は一ヶ月続くそう！）。約一時間の道中、さまざまな植物に出合う。花が満開になる頃には葉が枯れてしまったため、菌（葉がない）「姥」に例えられたという姥百合。見る角度によって緑から青に色が変わ化する紺照鞍馬苔、葉の裏を枝で擦ると字が書けることから昔の人が手紙に使ったとも言われる多羅葉。せっかくなので私も多羅葉の葉裏に上句を書いてみる。「日之影はおおきな壺のなかの町」。

みずからのあおい匂いを抱きとめるかたちに編まれ 四海波かご

居酒屋「左近」で天然鮎の塩焼きやヤマタロウガニのお味噌汁など、地元食材を使った昼食をいただいた後は、手作り工房「匠の里」にて竹かご作りを体験。初心者向けの「四海波かご」は炬燵の上に置いて、蜜柑やお煎餅を入れたくなる形。指導してくださったのは日之影の数少ない竹細工職人・小川鉄平さん。籤を、硬い皮側の籤、柔らかい内側の籤と、格子状に交互に編んでゆく。こうすると籤同士が固定され、接着剤など使わず丈夫なかごができるという。竹を刈って、ナイフで裂いて、籤を編む。すこし黒ずんで、しなやかに動く小川さんの手で編まれたかごは、とても綺麗だ。

石段は社殿につづき白曼珠沙華が見ていた 九月の神楽

旅の終わりは岩井川神社へ。この地に伝わる大人神楽、全二十八番のうち神鎮まりの舞「鎮守」と氏神である菅原道真公が現出する舞「天神様の舞」を特別に見せていただくことに。太鼓、鉦、笛の音とともに舞が始まると、もうそこには別の時間が流れた。偶然居合わせた近所のお婆さんは喜びながら「神楽面、こんな顔してたのね。いつも裏方で一晩中お客さん達のご飯作って、前から見たことないの」と。最後、天神様から神楽棒をいただいた。私の胸の高さほどの神楽棒。手放してはならぬ、という一心でなんとかともに空を越え、東京まで携え帰ることができた。

※このエッセイでは日本書紀に基づいて神々の名前を記載しています。



【執筆者紹介】

歌人 小島 なお

1986年、東京生まれ。2004年、角川短歌賞受賞。

2007年、コスモス入会。歌集に「乱反射」（現代短歌新人賞）、「サリンジャーは死んでしまった」。

2016年度には「NHK短歌」選者を務める。

ニニギノミコトとミケイリノミコト 地名に残る神々の足跡をたどる。

地名に神々の痕跡が残る「日之影町」。

深い深い溪谷のまち、日之影町では、ユニークな地名の中に神々の足跡を見つけることができます。

葦原中国に降臨したニニギノミコトは、天降る途中、現在岩井川神社のある大人(おおひと)地区に止まったと伝わります。「大人」が古来「大日止」と書かれたのは、このニニギノミコトの滞在が由来だとされています。

また、古語で「日の光」を意味する「日之影」の地名は、ミケイリノミコトの伝説が由来。東征の途中で一行とはぐれたミケイリノミコトが高千穂に戻る途中、突然空が暗くなって大雨となり、たちまち川の水が溢れて渡れなくなりました。その場はなんとか渡れたものの、その後も行く先々で大雨に見舞われます。暴れ鬼・鬼八が雨を降らす術で邪魔をしていたのです。

困ったミケイリノミコトが天の神々に祈りを捧げたところ、雲が立ち消えて雨が止み、「日の影(光)」が差し込みました。このことから、この地域を「日之影」と呼ぶようになったといいます。

地域の人々が大切に語り継ぐ、地名に隠れた神々の物語を探しに出かけましょう。

日之影町・岩井川神社

卍 岩井川神社

岩井川神社のある大人地区は、古来「大日止」と書き、ニニギノミコトが天降る途中で止まったことが由来だと伝わります。社殿までの長い石段でも知られており、毎年1月に奉納される大人(おおひと)神楽の舞入れでは、奉仕者(ほしゃどん)が307段の石段を歌や舞と共に降っていきます。まるで天孫降臨の道行きのようなのです。

所在地：日之影町岩井川 2422-1
お問合せ：日之影町地域振興課
TEL：0982-87-3910



大人神楽／舞入れ



雨社天満宮

卍 宮水神社

鬼八の魔術で大雨に遭ったミケイリノミコトは、宮水地区にあったクスノキの洞窟で休息し、記念に自然石を残したとされます。この自然石を祀った雨社天満宮が合祀されたのが宮水神社です。

所在地：日之影町七折 9032 お問合せ：日之影町地域振興課 TEL：0982-87-3910



たかじょうやま 山頂からの眺め

♻️ 高城山

ニニギノミコトが国見をしたと伝わる山。美しい棚田が一望できる山頂には、サルタビコノカミがニニギノミコトをお迎えしたとの伝説も残り、山の西の麓の地名「乙女」はアメノウズメノミコトのことだとされます。

所在地：日之影町岩井川

周辺観光Info.

Information

緑と川のせせらぎに癒される。



♻️ 日之影温泉駅/TR列車の宿

廃線となった旧高千穂鉄道の駅を改装して造られた施設。天然温泉や日之影町の物産販売を行っている「日之影温泉駅」と、旧高千穂鉄道の車両を改修した簡易宿泊施設「TR列車の宿」があります。人々の生活を支えていた鉄道が、人々に安らぎを与える場所として愛されています。

【日之影温泉駅】所在地：日之影町七折 3235-5 TEL：0982-87-2690
営業時間：(温泉)10:00～21:00、(レストラン)11:00～14:30、16:00～20:00、(売店)8:00～20:00
定休日：月曜日
【TR列車の宿】所在地：日之影町七折 3235-5 TEL：0982-87-2600



天孫降臨とミケイリノミコトの 伝説を追ったら、 次は豊かな山と溪谷が育んだ 自然美の世界へ

町域の92パーセントを森林が占める緑豊かな日之影町。
四季折々の表情を見せる美しい山や溪谷を歩けば、緑がもたらす力を得て、
日々の疲れが飛んでいくよう。
木々の間を縫って暖かい太陽の光が注ぐ様は、ミケイリノミコトと鬼八の伝
説を思い起こさせます。日之影の自然を満喫する旅に出掛けましょう。

日之影町・見立



森林セラピー

森の持つ癒し効果を科学的に解明し、心身の健康づくりに生かす森林セラピー。日本で初めてその基地に認定された日之影町では、森の癒し効果を体感できる様々なプログラムを行っています。清流を眺めながら、深い緑の中のセラピーロードを散策した後は、匂の味覚や伝統工芸体験など、心身ともにリフレッシュできるツアーも楽しめます。

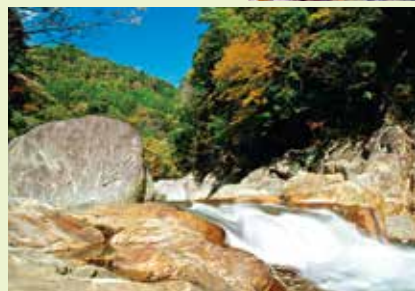
問合せ先：日之影町森林セラピー推進協議会
(日之影町大字岩井川3398番地1)
TEL：0982-87-3910
ホームページ：http://hinokage-therapy.com/



見立溪谷

日之影川の上流に位置する24kmにも及ぶ溪谷。浸食によって形成された奇岩や巨石が多く、美しい景色が楽しめます。特に10月下旬～11月下旬頃の紅葉の季節は、モミジの赤と爽やかな青き清流とのコントラストが鮮やかです。周辺では、森林セラピーやウォーキング、溪流釣りも楽しめます。

所在地：日之影町見立
お問合せ：日之影町観光協会
TEL：0982-78-1021



出羽洞穴

日之影川を上流に進んだ本谷山の標高920mにある巨岩の洞穴。約2万年前・旧石器時代の生活を伝える遺跡です。宮崎県内で最も古く、材料となる流紋岩が豊富であったことから、様々な石器が出土しています。

所在地：日之影町見立出羽
お問合せ：日之影町観光協会
TEL：0982-78-1021



矢筈岳・丹助岳

祖母・傾国定公園に属する標高666mと815mの山。形の美しさと山頂の展望の良さ、登山道までのアプローチの手軽さでクライマーに人気の山です。

所在地：日之影町大字七折
お問合せ：日之影町観光協会
TEL：0982-78-1021



周辺観光Info.

Information

自然と共生する山間の暮らしに触れる



石垣の村

「石垣の村」と呼ばれる戸川地区には、「日本の棚田百選」の美しい棚田を守るように見事な石垣が続いています。菜の花咲く4月末頃には、「棚田まつり」が開催され、神楽の奉納など多くの人で賑わいます。

所在地：日之影町大字七折7282-1
お問合せ：日之影町観光協会 TEL：0982-78-1021

竹細工資料館

日之影の職人が製作した竹工芸品を展示する施設。米スミソニアン協会の国立自然史博物館にも収蔵された「現代の名工」廣島一夫氏の作品をはじめ、日本民具の貴重な資料であり、芸術性も高く評価されている日之影の竹細工文化に触れることができます。

所在地：日之影町大字七折3455-47(旧商工会館3F)
お問合せ：日之影町観光案内所(入館申込先)
TEL：0982-87-2705



高千穂・日之影の神楽

宮崎県内各地では、その年の実りに感謝し、舞に地域の神々への祈りを込めた伝統神事芸能「神楽(かぐら)」が行われています。宮崎の神楽は、地域神話や生活に根ざした歴史性、多様性を持ちます。ぜひ現地に神楽を見に行ってみませんか？

国指定重要無形民俗文化財

高千穂の夜神楽

地域の氏神様を「神楽宿(かぐらやど)」と呼ばれる里の家(現在では公民館等の場合も多い)にお招きし、夜を徹して33番の神楽を奉納する「高千穂の夜神楽」。

観客を巻き込みながら面白おかしく舞う「御神体(ごしんたい)」の舞などが人気で、天岩戸開き神話を舞で表現した「岩戸五番」が重要な演目とされています。タヂカラヲミコトが天岩戸を開く「戸取(ととり)」の舞の頃にちょうど日の出を迎え、神楽宿に光が満ちあふれる様子は、まるで神話の世界のようです。かつぼ酒・かつぼ鶏など郷土料理によるおもてなしも。



手力雄



御神体



かつぼ酒

- 各地区での奉納
開催時期：毎年11月中旬～2月上旬頃、会場：町内各地区神楽宿
 - 高千穂神楽(観光神楽)
開催日時：毎日20:00～21:00、会場：高千穂神社神楽殿、料金：1000円
代表的な4番(手力雄・鉦女・戸取・御神体)を観光客向けに毎日奉納。
 - 天岩戸夜神楽 33番大公開まつり
開催時期：毎年11月3日、会場：天岩戸神社斎館
 - 神話の高千穂夜神楽まつり
開催時期：毎年11月22日～23日、会場：高千穂神社神楽殿
- ※詳細は、高千穂町観光協会
(<http://takachiho-kanko.info> TEL：0982-73-1213)まで

宮崎県指定重要無形民俗文化財

日之影神楽

日之影神楽には、特徴的な演目に「座張(ざはり)」など「あばれ神楽」と呼ばれるものがあり、奉仕者が御神屋(みこや、神楽の舞場)を飛び出して観客の中を縦横無尽に走り回り、観客に抱きついたり、子どもを泣かせたりします。この「暴れ回る」奉仕者に触られると良い1年になるとされ、賑やかな太鼓の音が響く会場に笑いと歓声があふれます。

また、子どもが扮する小さなアマテラスオオミカミをタヂカラヲミコトが導き舞う「舞開」は、まるで神話の世界がそこにあるように神々しく、とても感動的です。



座張



舞開



手力男命

- 各地区での奉納
開催時期：毎年11月～2月頃、会場：町内各神社、集会所等
 - 日之影かぐらまつり
開催時期：毎年11月頃
会場：日之影町神楽殿(日之影町大字七折中尾 8693-5)
- ※詳細は、日之影町教育委員会
(<http://www.town.hinokage.lg.jp> TEL：0982-87-3919)まで

高千穂・日之影の特産品

豊かな自然とそこに息づく文化が育んだ逸品たち——。神話の旅と一緒にいかがですか？

ラナンキュラス

高千穂オリジナル品種を含む約90品種を栽培。寒暖差が激しい気候の中で育ったラナンキュラスは、切り花にしても長持ちするのが特徴です。贈り物にもおすすめです。



高千穂牛

高千穂で生まれ、ミネラル豊富な山草を食べて育った高千穂牛。さっぱりした脂と赤身のバランスが絶妙で、焼肉に辛子醤油をつけるのが地元流。



竹細工／藁細工

農閑期に家々で行われた技術が、伝統工芸として今に伝えられています。「かるい」(竹の背負い籠)等の民具から、注連縄等の縁起物まで、生活に密着した技術が高く評価されており、製作の体験もできます。



日之影栗

渓谷の町・日之影町の急斜面で育った栗は、香り高く、大ぶりなのが特徴です。絶妙な甘さがくせになる栗さんとうなど、町内では、加工品も多数販売されています。

釜炒り茶

高千穂・日之影を含む宮崎県西臼杵地域が生産量日本一の「釜炒り茶」。煎茶より古い歴史を持ち、文字どおり直火で熱した釜で炒って作られます。すっきりとした香りが特徴です。



柚子柿

九州山地の山里一帯に古くから残る在来の渋柿を厳選。恵まれた気候条件の中で丹念に干し上げた柿に柚子の香味を加え、藁縄で巻き締めた伝統ある逸品です。薄くスライスしてお茶うけやおつまみにどうぞ。



高千穂・日之影 MAP



おすすめ観光ルート 高千穂町・日之影の魅力がたっぷり味わえる とおきのスポット満載ルート

天孫降臨や天岩戸開き神話、そしてミケイリノミコトと鬼八の伝説に思いを馳せながら、高千穂町・日之影町に点在する神話ゆかりの地や自然いっぱいの観光スポットを巡ろう！

高千穂コース



日之影コース

